

令和4年度 栃木県立馬頭高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

1 開会

教頭より開会の言葉

2 校長挨拶

学校概況について

- ・5/31(火)に創立76周年記念式典の開催があった。昨年度は水産科50周年記念式典も開催された。
- ・今年度の入学生は40名、充足率38.2%（過去最少人数）。生徒は純朴素直な生徒が多い。
- ・授業見学で見ていただいたとおり、少人数で丁寧な授業を心がけている。昨年度整備されたタブレットや電子黒板等ICTを活用した授業を実施している。授業態度は概ね良好である。学校生活全般で見ても、概ね落ち着いた生活を送っている。
- ・部活動では、今年度もアーチェリー部とレスリング部が関東大会に出場している。
- ・悩みを抱えた生徒に対しては担任を中心に学年で対応しながら、教育相談係やスクールカウンセラーと連携を図り、共通理解のもと指導にあたっている。
- ・コロナ禍が教育活動に少なからず影響していることが本校でも見てとれる。感染防止に努めながら教育活動を行っている。今年度は文化祭や修学旅行などの行事が出来そうだと感じる。
- ・今年でコミュニティスクールとして5年目を迎えている。学校運営協議会でご意見を伺う中、本校の特色ある取り組み（子ども園との交流、町イベントへの貢献、農業等）について広報活動が下野新聞や全国紙をはじめなかテレビNHKやFMラジオ、業界紙等マスコミによるメディア展開が多数行われている。しかし広報活動が入試の志願者数に結びつかない状況。
- ・第2期再編計画最終年度。平成30年度にコミュニティスクールになり、それに合わせて学校運営協議会がスタート。今年の2月には「県立高校の在り方検討会議」で今後も続く中学生の卒業生数減等高校を取り巻く環境の変化に対応するため「とちぎの未来を切り拓く人材の育成を目指して」と題して提言が出されている。この中には本校の存続に関わる内容も書かれている。
- ・再編に関して高校再編県民フォーラム（7カ所）が行われる。足を運んで欲しい。本校にも5/18教育委員会の再編担当者が来校、6/10に新教育長が来校予定。協議会委員の人数13名（3名増加、8名の新規）となった。年4回の開催予定。委員をお引き受け頂きありがとうございました。

3 県教育委員会あいさつ及び委員任命

【高校教育課：板橋副主幹】

委員の皆様には本県教育の推進にあたり、ご理解ご協力いただきありがとうございます。

子ども達を取り巻く環境の変化や学校が抱える課題は多様化・複雑化している。教育改革、地方創生の観点からも学校と地域との関係、協働の重要性が指摘されている。また、生徒や学校が抱える課題の解決や生徒の豊かな成長のために育てたい生徒像や教育ビジョンを地域や保護者の皆様と共有し、地域と一体となって生徒を育む地域とともにある学校づくりが有効とされている。学校運営協議会はその地域とともにある学校づくりにおいて有意義なしくみである。学校運営の基本方針の承認やご意見をいただくとともに地域、保護者のニーズを迅速かつ的確に反映させるものとなる。馬頭高校は地域との連携が活発に行われてきた。これからも地域とともにある学校づくりの推進に努めていただきたい。

4 自己紹介

5 議事

資料確認から

(1) 会長及び副会長選任

会長；若園様 副会長；吉成様

(2) これまでの取組について

【教頭】（資料 P 16～参照）

- ・ 本校入学生を増やすための努力はしてきたが、資料 P.6 のとおり定員割れの現状である。P.18 にもあるとおり、今回委員となっていていただいている益子町議から町議会でご意見を出していただいたことを受け、学校としてもプロジェクト委員会を立ち上げた。ぜひ、学校の魅力化につなげたい。
- ・ キャリア教育について、離職しないよう指導が必要。
- ・ LGBTQ 対応を含む女子スラックスの対応により、現在スラックス着用している生徒もいる。
- ・ 観点別評価については、校内ではシラバスも完成し進めているところではあるが、県内で一斉に始まった校務支援システムに四苦八苦している。
- ・ 農業の授業は数年前の学校運営協議会の提案から始まった。今では生徒にとっても学校にとっても地域にとっても活気ある授業になっている。

【主幹教諭；青木】

- ・ 水産科は昨年度水産科 50 周年を迎えた。研究ではしもつかれ缶詰の作成に取り組みテレビ等取材を受け、非常に好評を得ることができた。このしもつかれ缶詰がアメリカ進出もしている。
- ・ 馬頭中学校とも交流し、授業・交流を実施できた。
- ・ 今年は、先日、さかなくんが来校、NHK「ギョギョットサカナ★スター」（ウグイ）TV 放映予定。
- ・ 3 月なかがわ水遊園のリニューアルに合わせてピラルクーを使ったカレーの試食などに参加。アンケート結果も上々だった。夏休みに、缶詰の販売ができるといい。
- ・ 7 月には HACCP 検定があり、工場見学を委員である塩澤社長さんの関東ユウキ食品工業にご協力いただく予定。
- ・ 養殖に関しては、溶存酸素量を増加させる装置を県で予算化していただいた。今後設置よてい。
- ・ 下宿について、現在 4 名（3 年 3 名、2 年 1 名）がお世話になっている。また、ひとり暮らしをしている生徒が 2 名（3 年 1 名、1 年 1 名）いる。下宿は現在相部屋で使ってもらっているの、来年は 2 名入れる予定ではある。最近の子どもは下宿に対応できる感じではない。全国募集であるため、今後どのように受入れていくか検討する必要がある。今後も下宿を引き受けてくださる方を募集していく。

【地域協働部長；小高】

- ・ 茂木町では公営塾を始めた（国の予算による）
- ・ コンソーシアムの立ち上げなどの仕組み作りを整理するプロジェクトチームを立ち上げた。若手の先生を中心に具体的な行動に移せるアイデアを作っていく予定。（本校に何が必要なのかを考える）
- ・ 運営協議会委員の方にもご協力いただきたい。

取り組みに対する質問・指摘

【若園委員】 校内のプロジェクトチームで話し合った内容はすぐに公開されるのか、一年たってから公開されるのか。

→ 【小高】 次回の協議会で公開する予定。

外部から評判を上げていく。

【益子委員】 高校魅力化プロジェクトについて、茂木高校の様子を知ることが、前に進むために大切。茂木との話し合いを進めることをしてはいかがか。

→ 【小高】 進めていく

→ 【校長】 茂木高校の公営塾の様子を見学した。活気があった。茂木は大学入学共通テストを視野に入れた進学に視点を当てている。馬頭高校と茂木高校の状況は違うので、馬頭高校ならではの展開が必要。

【若園委員】 学習活動についていけない生徒への対応は

→ 【校長】 「居場所カフェ」のイメージ。学習支援、就職希望者のための面接・作文指導等

【渡辺委員】 少ないながらも、その少ない人数に対してよりよい教育をするのか、他（の高校）と限られた数の中学生を取り合うのか

→ 【校長】 小規模特例校は地域に一定の役割を果たしている。2 学級（普通科 1 水産科 1）特例高となっても、小規模であっても特色を出していく方向もある。

【若園委員】 きめ細かい教育が出来るということにおいては悪くないこと。

（3）学校の魅力化、特色化について（意見交換）

①令和 4 年度学校経営方針及び重点施策について

資料 P3～4 と別紙（コミュニティスクールについて）を参照。これをもとに今年度の本校の重点目標の内容を見てご意見頂きたい。

【若園委員】 資料 1・資料 2 について意見あれば。

【益子委員】 高校と大学の連携を考えていく必要があるのでは

→ 【青木】 レスター財団による東京大学と一緒に研究する相談をしてきたが、うまく進んでいない状況。他大学との連携も模索中

【益子委員】 町を仲介として大学との連携を考えてはどうか

【塩沢委員】 『〈コミュニティ・スクール〉(4)教育活動に関する情報発信と広報活動の一層の強化』について、もっと明確に謳ってはどうか。

→ 【教頭】 HP 上では、行事等の対応を頻繁にしている。HP へのアップはその都度しているが、挙げて安心してしまうのではなく、見てもらえるようなシステムを作る必要あり

【若園委員】 水産科はアピール出来る物があるが、普通科はどうか

→ 【小高】 現 2 年生の良さを生かしながら学校紹介をしていくなどの構想を練っている。高校生の視点から町の紹介をしたり、ししまるの PR や町の民話の継承などをしたりして那珂川学で実践していく。

馬頭高生が「すごい」と思ってもらえる機会を作ることはいい。

②現状及び今後予想される課題について

【教頭】資料から塩谷南那須地区の児童生徒数の減少状況が分かる。生き残るためには更なる魅力が必要となるのでアドバイスを頂きたい。合わせて、交通機関がないことをどうクリアするか。

(補足) 去年は 10 月のダイヤ改正で学校や町に何の連絡もないまま 12 時台の氏家駅行のバスが廃止され、テスト期間や始業式終業式の日には帰る手段がなくなり、生徒・保護者とも困った事態となった。町との連携でダイヤが復活した。

【若園委員】生徒数減少について。馬頭高校に来ると良い育ちがあるということを示して欲しい。

【渡辺委員】少人数であることを生かす、一人一人に目が届くと言う特色でも良いのでは。現従業員は専門学校卒が多いが、社会生活力に乏しいと感ずることがある。重点目標に社会力をつけさせることを追加してはどうか。目が届く指導により社会性を高めることもできるのではないか。

【岡委員】公営塾を立ち上げたが、成果が上がらないようではダメ。町役場に合格するレベルまで上げてほしい。高校全体の学力が高まれば、入学希望生徒の数も増えるのでは。

【若園委員】役場で採用枠を作ってもらっても良いのでは

【岡委員】先生達にも諦めてほしくない。(自分の勤務している会社でも)入社の馬頭高校卒業生は国家資格試験に 99%落ちる。2 時間の残業手当をつけて勉強することで合格できるようになっている。あきらめずに指導して欲しい。

【若園委員】在学中に採れる資格は

→【校長】水産科関係の資格、漢字検定・英語検定・情報系ほかがあるが・・・

【若園委員】学習習慣を身につけることは公営塾の一つの役割でもある。

→【校長】茂木の公営塾では 50 分 4 コマを実施。登録は 50 名程度、常時利用者は 20 名程度。総合型選抜・小論文対策・面接指導なども行っている。主なターゲットは大学入試である。

【塩沢委員】協議会から要望書を出すことは出来るのか。

学校の魅力をいかに発信するかが大切。町から学校を考える会を作ってもらえないか。いかに宣伝するかが大切なので町に PR できる人を選任して欲しい。若い人で良い発想ができる人が望ましい。

【小松委員】町の協働本部について

地域おこし協力隊については町での採用枠がない。今年度発足する地域協働本部に馬頭高校も入ることとなる。

【塩沢委員】まずは実践することが手法ではないか。子ども達から人気があるなかかわ水遊園で馬頭高校の魅力をさらに発信してもらってはどうか。

【若園委員】道の駅やなかかわ水遊園などでブースを割り当ててもらい、生徒達に宣伝を考えてもらう。同世代の人たちにアピールするには同世代がよい。(パネルを利用するなどして)

【小川委員】普通科の地域との協働アピールにはボランティア部などのように福祉関係で推進にしてはどうか。ポッチャの指導や赤い羽根募金の街頭活動など地域と学校との距離を縮められる。

→【小高】ボランティア部は現在 7 名(3 年生が 6 名)廃部の危機。

【岡安委員】新聞や広報誌での発信は充実していると思う。小さい町なので、幼保小中学校との連携ができるとよい。武茂川での活動で水産科と交流があったが、小学生からすれば高校生はあこがれの存在。高校生にとっても小学生とのふれあいの中で自己肯定感を育むことができる。

斜めの関係づくりを進めていくことが大切。大人と子どもの教育だけではなく、以前のように幅広い年齢層の中で育った。例) 馬頭高校のアーチェリー部とレスリング部が活躍しているが、中学校にはいずれの部活動もない。中学生が交流で活動させてもらえると良い。

→【校長】鳥山高校では地域住民にアーチェリー教室を行っている。

→【若園委員】お互いを行き来して交流を深めて欲しい。

【吉成委員】那珂川町住民は馬頭高校の存続にどれほどこだわっているか。コロナの影響もあるだろうが、残していこうという気運が下がったのではないか。町民が馬頭高校を必要と感じてくれるよう、地域協働本部を作って地域の教育力を集約させる必要がある。地元だけに目を向けるだけではだめ。もっと広く目を向けて、外に足を運ぶことが大事。

【若園委員】町外からの希望者を増やしていく必要性がある。

【渡辺委員】町内から水産科に入学している在校生がいない。町内中学生にアピールする必要がある。

【白相委員】子どもをお持ちの方から言われることとして、「水産科が有名だけど、何をしているかが分からない」見えていない部分が発信できていないと思われる。まずは、身近なところ(地元)から発信することを積極的にしてはどうか。

【荒井委員】中学生の双子がいるが、高校選択肢の最優先が部活動という。入りたい部活動のあるなしが重要では。

(4) その他

【青木】・・・50周年記念手ぬぐいデザインの説明。デザインを担当した卒業生の作成した冊子の紹介。

【益子委員】施設改修の計画に今年来年馬頭高校は入っていない。危機感を持っている。再編計画の中で取り残されないようにしなければならない。トイレが洋式でないことも入学希望減少の理由の一つではないか、可能性はゼロではない。

6 その他

[事務連絡]

- ・第2回学校運営協議会は9月か10月に予定している。
- ・マイナンバー関係書類について

7 閉会